

感染性胃腸炎 ウイルス性胃腸炎について

冬は、インフルエンザとならび、感染性胃腸炎が流行する季節です。ノロウイルスやロタウイルスなどは有名ですね。ロタウイルス胃腸炎は大人でもかかりますが、一般的に症状が軽いため、気づかないうちに小さいお子様にうつしてしまうこともあります。胃腸炎による脱水から死につながることも知られており、世界の100か国以上で積極的にロタウイルス予防接種がすすめられている病気でもあります。

①症状について

両ウイルスともに発熱・嘔吐・下痢便などの症状がみられます。発熱や嘔吐から始まり、1日くらい経過して、下痢が始まることが多いです。ロタウイルスは乳幼児、ノロウイルスはそれよりもう少し大きい年齢によくみられます。下痢便は1週間程度持続します。ロタウイルスは便の色が白っぽくなることで有名ですが、実際は様々です。下痢は10回以上になることも多いです。

②胃腸炎と痙攣

ロタウイルスやノロウイルスの胃腸炎にかかると熱がなくても痙攣が起きることがあります。胃腸炎にかかって数日たった頃に起こることもあります。痙攣時には早めに病院を受診しましょう。

文：小児科 大庭 彩



③感染の予防

感染者の嘔吐物や便のウイルスが手や空気を介して体内に入ることによって伝播していきます。発症後1週間は便中にウイルスが排出されている可能性があるため注意しましょう。

感染予防で重要なことは手洗い、うがいです。嘔吐物を片付ける時には使い捨てのマスクや手袋を着用し捨てるようにしましょう。

④胃腸炎の時の食事

嘔吐があるときには積極的に経口補液を行いましょう。市販の経口補水液や母乳で構いません。嘔吐が治まり水分がとれるようになったら早めに食事を再開しましょう。その方が腸粘膜の回復がはやくなります。水分摂取が困難な場合は無理せず早めに病院受診するようにしましょう。乳幼児は体の中の水分含有量が多いため大人と比べて脱水を来しやすいです。



検査課シリーズ その③

～真菌（カビ）の検査～

以前お話しました微生物のひとつに、真菌（カビ）が存在します。

今回は、皆さんの身近な真菌について紹介します。

免疫力の低下や不衛生な状態が原因で真菌に感染し、増殖した状態を「真菌感染症」と言います。皆さんは皮膚が湿ってふやけたようにジュークジュークしたり、乾燥してひび割れたりなどの症状で「水虫」に悩まされたことはありませんか。

「水虫」の原因は、白癬菌（はくせんきん）という真菌（カビ）の一種です。この白癬菌が皮膚に侵入し、高温多湿などの条件がそろった場合に病気を引き起こします。

当院の白癬菌検査

白癬菌は、皮膚の表面に存在する角層や爪などに侵入し、住み着きます（寄生）。その寄生している部分を採取して、臨床検査技師が顕微鏡で直接観察します。

この検査法を「直接鏡検検査」と言います。写真の糸状に細長く見えるのが白癬菌です。

この検査法は比較的簡単にできますが、検査材料から白癬菌を発見し、判断するという技術が必要になります。

「水虫」を予防するためには、原因である白癬菌が好むジメジメした環境を作らないことが大切です。実際に、手や足に付着してもすぐに発病しません。角層などに侵入してくるまでに1～2日かかるため、日々のケアで身体を清潔に保ちましょう。

(文:検査課 富田 彩水)

せいの通信 アンケートについて

日頃より、せいの通信をご覧いただきまして誠にありがとうございます。

当院では、本誌が利用される方々にとってより良いものになるよう皆様の声をお聞きしたいと考えております。

お寄せ頂いたご意見・ご感想等は、今後の誌面作りの参考とさせていただきますので是非ご協力をお願い致します。

つきましては、お手数ですが本誌にはさんであるアンケート用紙にご記入の上、総合受付にある回収箱にご提出いただきますようお願い致します。

●アンケート回収箱設置場所：総合受付

●設置期間：
2019年1月4日(金)～31日(木)

(文:広報委員会 事務局 山本 裕介)

